

## 産業社会と人間

### 夏休みの課題：インタビューと写真撮影をして、書き起こそう

#### 課題 内容

- ① 「働くことと暮らすこと」をテーマに、インタビューおよび撮影を行う
- ② インタビュー後、インタビュー内容を書き出し整理して、原稿を作る
- ③ 原稿と撮影した写真データを提出する（提出締切は8月29日）

#### 提出物 Google Drive 利用

1. **インタビュー原稿**
  - ・ 録音したものをそのまま書き起こしたものをデータで作成・提出。ファイル名にクラス・番号・名前を入れる。
  - ・ 9月に編集した編集後の分量：800字程度（予定）
2. **写真データ**
  - ・ アプリ等での加工・調整をせずに以下2種を提出。データ名にクラス・番号・名前を入れる。（複数枚撮影した場合、よいものを数枚選び提出）
  - ① インタビュー相手の写真 × 1枚以上
    - ※ 必須：正面から撮った写真
    - ※ 可能であれば、働いている様子の写真など、複数のパターンを撮ろう。
  - ② テーマに関連して、相手が愛着をもっている「もの」の写真 × 1枚以上

#### インタビュー&撮影までの流れ

##### 1. 準備：自分自身の問いを深めよう

- ・ 授業を振り返りながら、ワークシートに取り組もう。
- ・ 「聴くこと」についての配布資料2種を読み、対話についての考えも深めよう。

##### 2. インタビュー相手を探そう

- ・ 自分の家族や親戚、知人、具体的な職業に就いている人など

##### 3. インタビューの依頼をしよう

- ① 授業の課題についてインタビューをさせてほしいと依頼する。
  - ・ 授業内容の概要を説明し、インタビューしたいこと、自分自身が特に聞きたいこと等を伝える。
  - ・ 相手の写真を撮影し、冊子に掲載する予定であることも伝える。

- ② 許可が取れたら、インタビューの日時を決める。

- ・ 相手の都合により、必要なら改めてメールで日時調整を行う。

- ③ インタビューの場所を決める。

- ・ インタビューの内容に関係する場所（仕事場や気分転換の場所など）であるとよりよいが、相手の都合を聞きながら柔軟に対応する。

- ④ 自分の連絡先（電話番号）を伝え、相手の連絡先を聞いておく。

- ⑤ インタビューまでに自分への問いを深めておく。

- ・ 相手のことについても調べられる範囲で調べておこう。
- ・ 「よりよいインタビューのために」「普通の写真を撮るために」を読んでイメージを膨らませよう。

##### 4. いよいよインタビュー&撮影へ！（録音も忘れずに。）

## 産業社会と人間

### 1 よりよいインタビューのために

#### インタビューの心構え

- ・ よいインタビューは準備にかかっている：本当に聞きたいことを整理しておく
- ・ 準備はしつつ、本番は話の流れに身をまかせる
- ・ 相手が話しやすい状況をつくる
- ・ 相手の意識が途切れないことを意識する
- ・ 相手とのコミュニケーションを意識する
- ・ 対話の中で何よりも大切なことは、相手への関心と敬意



#### よいインタビューのためのポイント

- ① 場所
  - ・ 相手が話しやすい場所を工夫しよう。
  - ・ 座り方、相手との距離も調整できる。
- ② 表情
  - ・ 相手の目を見よう。表情もしっかり見よう。
- ③ 録音とメモについて
  - ・ インタビュー中は相手とのやりとりに集中することが第一。ボイスレコーダーで録音し、メモは最小限に留めよう。
  - ・ 「音声に残らないもの」もある。表情や雰囲気、感情、沈黙など。メモに残そう。
  - ・ インタビュー終了後に、「大切だ」「なんだか心に残った」ことをメモしよう。
- ④ あいづち・リアクション
  - ・ 相手の話をしっかり聞いていることを示そう。ただし、興味がなければ嘘っぽくなる。
  - ・ 普段より、あいづちやリアクションを意識する。ただし、大袈裟にならない。
- ⑤ 話の深め方・広げ方
  - ・ エピソードを具体的に掘り下げることが意識しよう。

例：だれと？いつ？どこで？なぜ？具体的な発言や行動は？表情の意味するところは？感情は？  
「もっと詳しく教えてくださいませんか」「なぜ～～だったんですか」「〇〇は～～ということですか」  
「私も～～ことがあったのですが、～～さんはどう思いましたか」

- ⑥ 自然な流れ  
質問 → 答え → 質問 → 答え …… の「Q&A」にならないように意識する。

## 産業社会と人間

### 2 普通の写真を撮るために

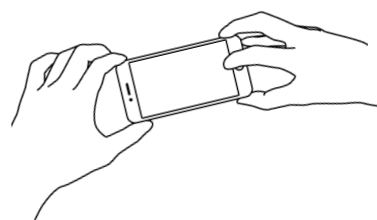
#### 撮影の心構え

- ・ まずは挨拶から！
- ・ 「自分が撮影した写真を人が見る」という意識を持つ
- ・ インタビューの前に、撮影することを伝える：突然撮られるとビックリする。写真の用途を伝え（冊子に載るなど）、撮影されるんだと認識してもらう。
- ・ 撮影中もコミュニケーションをとる：協力者になってもらい、一緒に楽しんでもらおう。
- ・ インタビュー相手の素敵などところを見つける
- ・ 入ってはいけないところがないかを確認する
- ・ 雑誌などで好みの写真をみつけておく

#### 撮影のコツ

- ・ 画面をよく見る：ただ何となく撮るのではなく、何を見せたいかをはっきり意識しておく。
- ・ 水平垂直をとる
- ・ 縦と横、両方撮っておく
- ・ 引きと寄り、両方撮っておく
- ・ 正面を見つける
- ・ 背景を考える：屋内 or 外、何を見せたい or 見せたくないのか、どこで撮るのがその人（もの）らしいのか。背景が壁など近すぎると奥行きがなくなる。
- ・ 画面の真ん中に置いて撮ってみる：伝えたいものが明確になり存在が際立つ。
- ・ 自分も相手も動く：ズーム機能に頼りすぎない。
- ・ 撮影するのは緊張するけど、出来るだけ朗らかな表情でカメラを構える：緊張は相手にも伝わるので、声をかけたりして和ませよう。
- ・ ピースされたらそれも一応撮っておいて、ピースなしも撮っておく：無理に流れを止めない。
- ・ 笑顔はやっぱり撮りたい！けど、真剣な表情も良いですね
- ・ 可能ならそのものだけでなく、それを使っているところも撮ってみる
- ・ 風景などを撮るとき、カメラを構える位置を変えてみる  
地面スレスレ、高いところからなど視点を変える

何はともあれ、その人、そのもの、場所と向き合って。  
その時間を楽しんでください！



## 産業社会と人間

### 1 これまでの授業の振り返り

#### ① 「産業社会と人間」の目的

自分の将来について考え、将来の社会生活の基礎となる知識・技術等を修得すること。また、「生きること」「働くこと」、そして自分と社会との関係について考え、ライフプランを作っていくこと。

#### ② 「働く」ことについて考えを深める

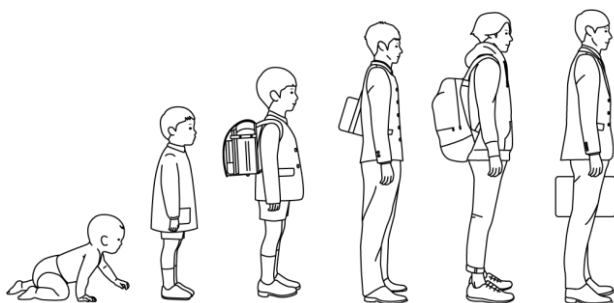
ライフプランを考える上で、そもそも「生きる」「働く」ということがどう言うことなのかについての考えを深め、自分なりの考えを持つておくことが必要です。近年、「仕事」のあり方は大きく変化しつつあり、これに伴って「仕事」と「生活」との関係も変化しています。このような時代においては、自分なりの豊かな生活とつながっている仕事についての価値観（キャリアアンカー）を見出していくことが大切です。

#### ③ キャリアアンカーを見つけるために

どんな職業に就くのであれ、自分自身にとって譲れない大事な価値観（キャリアアンカー）を見つけるために、働いている人たちと対話をすることが夏休みの課題です。

夏休みの課題である「対話」を通して、みなさんは様々なことを考え、感じるはず。それらを残すために、対話相手の「語り」を文章にして、一冊の本にします。みなさんが対話した相手の仕事や生活についての思いや考え、大事にしていることやこだわりなどを、みなさんの感じたことを大切にしながら文章にまとめてください。それは、対話相手のキャリアアンカーを探っていくことでもあります。

みなさんの文章を綴じた一冊は、みなさんがライフプランを考えたときの羅針盤のようなもの。そして、その本を購入して手に取る人にとっても、意味あるものになるはずです。



# 産業社会と人間

## 2 今後の流れ

インタビュー原稿の執筆を進め、写真を選びます。原稿も写真も提出期限は10月7日（金）。

### 提出物：原稿

- ・ 分量：800字程度。Google Drive上で作成し、先生の指示に従って提出してください。
- ・ ファイル名にクラス・番号・氏名を入れてください。
- ・ 原稿以外に書いてもらう情報もあります。以下の書き方に沿って作成してください。

- (1行目) タイトル (20字以内)
- (2行目) 自分のクラス、番号、名前
- (3行目) インタビュー相手の名前 (漢字とふりがなの両方で)
- (4行目) インタビュー相手の職業
- (5行目) (空ける)
- (6行目) (ここからインタビュー原稿を書く)

※インタビュー原稿を書き終えたら、2行空けて、次の二つを書いてください。

- ① 自分のプロフィール (100字程度) ② 自分の感想 (字数制限なし)

### 提出物：写真

- ・ 以下の2種類の写真データを、先生の指示に従って提出してください。(数枚撮った場合は、良いと思うものを2-3枚選んで提出)
- ・ アプリ等を用いた写真の加工・編集は行わずに提出してください。写真の調整はデザイナーが行います。

#### インタビュー相手の写真

必須：正面から撮った写真。可能な  
ら、働いている場所での写真など複  
数のパターンで撮らせてもらおう

#### テーマに関連して、相手が愛着をも っている「もの」の写真

→ 原稿は、提出後に下記の手順で修正を重ね、よりよいものにしていきます。

1. プロの編集者が原稿チェック
2. 各自で原稿を修正
3. インタビュー相手に原稿と写真を確認してもらう & 原稿修正
4. 原稿完成・校了 (11月27日)

## 産業社会と人間

### 3 「語り」を、原稿にまとめる

#### ① 具体的に、どう進める？——文章作成の手順

- ・ 録音したものを書き起こす。
- ・ 自分自身が一番印象に残っている部分や読者に知らせたい部分を軸に、内容を並べ替えたり、必要ない部分を省いたりして、整理する。

#### ② よい「語り」の文章にするには？——文章のスタイル

- ・ 文章は「一人称」にする。インタビュー相手の「語り」を、「その人が語っているような文章」に書き直す。
- ・ 文末は「敬体（です・ます調）」にするが、相手のくだけた言い方は残す。方言があればそのまま使う。
- ・ サンプルを参考に読み物として書き上げていく（参考資料）

**例文：**私は農業をしています。仕事をしていて大事にしているのは、土と向き合うことです。土は日々変わるから、水をどれくらいやったらいいか、どれくらい掘り起こせばいいかを考えます。土と対話しているような感じです。

**今回は NG（3 人称形式）の例文：**農業をしている菅野さんにお話を聞きました。まず、仕事をしていて大事にしていることは何かを聞くと、「土と向き合うことです」と語っていた。その理由を聞いてみると、「土は日々変わるから」だという。その日の土の状況に応じて、水やりの量などを調整するそうだ。菅野さんはそれを、「土との対話」と語っていた。

#### ③ よい「語り」の文章にするには？——書き手として心がけたいこと

- ・ **相手の生の声をそのまま書く**  
相手の語ったことを書き換えたりせずにそのまま書こう。方言もそのまま音にしみよう。そうすることで、その人の人柄が現れるような文章になる。
- ・ **メリハリをつけた文章を意識する**  
聞いた内容のすべてを書かなくてよい。自分の心に残った語りを中心に、その語りが際立つよう、それ以外の部分はコンパクトに書こう。順番も、聞いた通りに書かなくてよい。読みやすいよう並び替えよう。固有名詞は略さず、正式名称を確認する。
- ・ **対話相手がかかれて嫌なこと、失礼なことは書かない**  
書いた文章は本となって不特定多数の人が読み、ずっと残る。語ってくれた人を尊重して書こう。
- ・ **読む人を意識して書く**  
本を購入して読む人のことを想像しながら、「読みやすさ・伝わりやすさ」を意識して書こう。書いた文章を音読してみよう。読みやすいかがわかるはず。

**（補足：感想の書き方について）**「頑張ろうと思いました」「いろいろなことを考えました」など、定型的な文章は極力使わないようにしましょう。自分の言葉・表現を探してみよう。